

知床エコツアーリズム推進モデル事業

平成 17 年度事業報告（概要版）

<環境省事業>

1. 知床型エコツアーリズムのあり方検討

【推進協議会】

■第 1 回知床エコツアーリズム推進協議会 平成 17 年 6 月 23 日 於：羅臼町商工会館
空席となっていた副会長に辻中知床羅臼町観光協会長を選出し、平成 17 年度の事業計画、予算（案）について承認した。また、平成 18 年度末に策定を目指す知床エコツアーリズム推進実施計画、ガイドラインについて、ワーキンググループを設置して今年度中から検討を進めることとした。

【ガイドラインの検討】

平成 18 年度中の策定を目指して、ワーキンググループを設置し、検討を開始した。

■第 1 回ガイドラインワーキング 平成 17 年 11 月 2 日 於：斜里町ゆめホール知床
ガイドライン策定のためのスケジュールの確認を行い、優先して検討するガイドラインを「エコツアー事業者に対するガイドライン」「エコツアーガイドに対するガイドライン」「アクティビティ別ガイドライン」とした。ガイドラインで定める目標のレベルなどについて検討を行い、次回までに具体的な案を事務局から提案することとした。

■第 2 回ガイドラインワーキング 平成 17 年 11 月 24 日 於：斜里町ゆめホール知床
事務局提案をたたき台として、ガイドラインの各項目について内容を検討した。また、本ガイドラインで規定する範囲と利用適正化検討事業で規定する範囲、ガイドラインのレベル設定、今後導入を検討すべき認証制度との関係などについて整理を行った。今回の意見を基に、次回までにより詳細な事務局案を作成することとなった。

■第 3 回ガイドラインワーキング 平成 18 年 1 月 12 日 於：羅臼町役場

第 2 回での検討事項に加えて、知床地区のガイド事業者に聞き取りを行った内容を加えて、再度事務局より提案したガイドライン（案）について協議を行った。2月上旬に地域向けの説明会を行い、ガイドライン（案）について広く意見を収集することとした。

■ガイドライン説明会 平成 18 年 2 月 7 日 於：ウトロ漁村センター

平成 18 年 2 月 8 日 於：羅臼町公民館

現時点までに検討の進んだガイドライン（案）について、地元ガイド、観光関係者などに向けて説明を行い、意見集約を行った。

【地域住民向け講演会など】

エコツーリズム普及のための下地を作ることを目的として、地域住民向けの講演会などを実施し、広く情報発信を行った。

■エコツーリズム講演会

「魅力ある観光地のつくり方～軽井沢星野リゾートの取り組み～」

講師：星野佳路氏（星野リゾート）

平成 17 年 10 月 4 日 於：ウトロ漁村センター 参加者数：79 名

軽井沢をフィールドに、環境に配慮したホテル経営やエコツアー・環境教育にも取り組む星野氏より、今までの知床には無かった視点・切り口から、知床観光の問題点、今後の展開へのアドバイスをいただいた。観光からの収益を還元して環境を保全するシステムを確立し、持続可能な観光の形態「エコツーリズム」を定着させること、また顧客満足度を高め、魅力ある観光地としてリピーターを創出していくことの必要性が説かれた。

【その他】

■第 2 回エコツーリズム推進オリエンテーション 平成 17 年 11 月 8～10 日

■第 1 回全国エコツーリズムセミナー 平成 17 年 11 月 10～11 日

於：富士北麓モデル地区

環境省選定の全国 13 箇所のエコツーリズム推進モデル地区担当者が一同に介し、推進状況の報告や情報交換を行った。知床からの発表に対しては、世界遺産登録後のオーバーユース状況とその解決策に関心が集まった。また、エコツーリズムに関する法令、エコツアーの商品化と販売などについて学ぶセミナーに参加した。



知床地区からの発表

2. ガイド技術講習会

エコツアーの中心的役割を担うガイドに対して、自然に関する知識、及びガイド技術・安全管理技術の向上を目的とした講習会を開催した。知床ガイド協議会に加盟している事業者に対して参加の呼びかけを行った。

平成 17 年度は 2 回の講習会を実施し、ガイドから要望の高かった救命救急法についての実技と、知床の気象などについての座学を行った。

■第 3 回ガイド技術講習会

平成 17 年 4 月 17～18 日 於：ウトロ漁村センター 参加者数：24 名

講師：阿部恭浩（MFA インストラクター・トレーナー）

北原 大（MFA インストラクター）

1 日目は MFA（Medic First Aid）の救急救命法の実技（疾病者の評価法・心配蘇生法・怪我の応急処置など）と担架が無い状態で人間を安全に搬送する方法などを学び、2 日目は屋外で実際に事故などが起きた状況を想定して救助のシミュレーションを行った。

屋外で活動するガイドにとって、遊歩道・登山道など救急車や救助隊がすぐに到着できない状況下での不慮の事故に備え、このような訓練を継続的に行う必要性を痛切に感じる講習会であった。



屋外での事故を想定した救助のシミュレーション

■第4回ガイド技術講習会

平成18年1月18日 於：斜里町ゆめホール知床 参加者数：40名

①知床の気象 講師：三浦 明（網走地方气象台）

②知床の地形・地質 合地信生（知床博物館）

知床に特異的な気象に関する事象や流氷について、実際に観測されたデータや天気図、レーダー図などから解説していただいた。

また、地質学的な知床半島の成り立ちや、地形的特長について解説していただいた。

今回の講習会の実施にあたっては、知床ガイド協議会の研修会と日程をあわせ、連携して行った。

3. 先進地視察と報告ワークショップの開催

【オーストラリア先進地視察】 平成17年12月9～17日

エコツアーリズム先進地として、オーストラリアへの視察研修を実施した。上野推進協議会長、辻中副会長他、計6名のメンバーがケアンズ、フレーザー島、メルボルンで実際に現地のエコツアーに参加し、また、ツアーオペレーター、国立公園レンジャーなどから、認証制度や国立公園の管理制度についての情報収集を行った。

オーストラリアでは豊かな自然資源を活かして、海、山、森など様々な環境でエコツアーが実施されており、また、国立公園の利用料の徴収や、観光事業者と保護団体・研究者団体の連携によって観光収入による利益を環境保全のために還元する仕組みにより、自然環境の保護と観光利用の両立が実践されていた。

エコツアーリズム認証制度については、全国で統一された規格によりエコツアーの質の維持・向上と消費者への情報提供が試みられているが、認知度はまだそれほど高くなく、事

業所・消費者双方へのメリットはまだ発展途上であると思われた。

国立公園や世界遺産登録地域の管理体制については、環境省の主導の下、キャリングキャパシティの規定による観光利用の調整がされており、オーバーユースによる環境破壊を防ぐシステムが構築されていた。



フレーザー島でのガイドプログラム

【視察報告会】

平成 18 年 1 月 18 日 於：斜里町ゆめホール知床 参加者数：53 名

平成 18 年 1 月 19 日 於：羅臼町商工会館 参加者数：28 名

先進地視察で訪れたオーストラリアで参加したエコツアーについて、またエコツーリズム認証制度や国立公園の管理制度などについて報告を行い、オーストラリアでの事例をふまえて、知床でエコツーリズムを推進するための提言を行った。参加者からは、オーストラリアでの先進的な取り組みの知床への導入の有効性などについて、多くの質問を頂いた。

4. 地域産業と連携したエコツーリズムの展開

漁業・農業など、知床の豊かな自然を活かした一次産業と観光業との連携を図るため、ワーキンググループにより検討を進めた。また他地域での取り組みを学ぶため、先進地への視察等を実施した。

【地域産業ワーキング検討会】

第 1 回地域産業ワーキング 平成 18 年 1 月 19 日 於：羅臼町商工会館

平成 17 年 10 月に実施された「全国グリーンツーリズムネットワーク北海道大会」への参加報告、今冬に羅臼で実施されるスケソウダラ漁見学体験プログラムの説明を行った。

また、来年度の事業計画について検討を行った。斜里・羅臼両町の地域間の連携を進める取り組みの必要性や、地域産業体験型プログラムを軸にしたモデルツアーの実施方法について意見を交わした。

【先進地視察】

地域産業ワーキングのメンバーを中心に漁業・農業関係者等 11 名が地域の産業と観光との連携が進むニセコ町等へ視察研修を行った。株式会社化したニセコ町観光協会の取り組みや、道の駅に併設された農産物直販所、余市町、小樽市などでも漁業生産物の加工販売所等について視察した。

ニセコの直販会を実際に運営されている農家の方々とも意見交換を行い、運営の難しさや利点など率直な意見をうかがうことができた。また、地域で生産される農作物や海産物の有効利用と知床での今後について斜里・羅臼双方の参加者がともに考える機会となった。



(株)ニセコリゾート観光協会への視察

【視察報告会】

平成 18 年 1 月 18 日 於：斜里町ゆめホール知床 参加者数：53 名

平成 18 年 1 月 19 日 於：羅臼町商工会館 参加者数：28 名

地域の産業と観光との連携が進むニセコ町等への視察についての報告を行った。視察の参加者へ斜里町、羅臼町内の漁業・農業従事者の方々や観光関係の方々から、多くの質問を頂いた。ニセコなどでの成功事例を参考にしながら、今後この地域でどのように地域の産業と観光の連携を進めて行けるのかについての提言を行うことができた。

【全国グリーンツーリズムネットワーク北海道大会】

農業と観光との連携により農村地域の活性化を目指す取り組み「グリーンツーリズム」

の実践者による情報交換会に参加した。鹿追町で実際にグリーンツーリズムを実践している農家を訪れ、取り組みや課題について情報収集を行った。

<北海道事業>

1. 知床型環境教育プログラムを検討する

地域に密着した自然環境教育を推進し、知床の適正な利用や環境保全意識の高揚を図ることを目的として、知床にふさわしい環境教育プログラムについての検討を行っている。

■プログラムの検討 平成17年4月～18年2月

地域に根ざした環境教育プログラムの開発に向けて、関係者との協議・調整を行った。

■検討委員会の開催 平成18年3月中旬予定

知床にふさわしい環境教育プログラムのモデルとして、知床の自然を題材としたプログラムを開発するため、学識経験者等による検討委員会を開催する。

■環境教室の開催 平成18年3月下旬予定

環境教室を開催し、本事業で検討している環境教育プログラムを実践するとともに、その実施結果をプログラムの改良にフィードバックする。

2. 通年かつ体験・滞在型観光地づくりを推進する

【体験型観光の推進】

■道東エリア体験観光ビジネス交流会の開催 平成17年10月27～28日

網走・根室・釧路・十勝支庁管内の47体験型観光事業者及び7観光関係団体、道内外の旅行エージェント等約20事業者を参集して、ビジネス交流会を実施。当庁管内では体験型観光事業者、観光協会等を含め10事業者が参加した。

■遠紋地域体験型観光事業者交流会の開催 平成18年1月25日

遠紋地域の体験型観光事業者、レンタカー業者、バス業者、ホテル旅館業者等を含めて17事業者34名が参加。(有)ネイチャークラブ代表取締役の小倉博昭氏を招き、富良野地域での体験型観光事業者等との連携など先進事例の講演・意見交換会を実施した。

【東オホーツク食の魅力アップ】

■オホーツク食の魅力アップ研究交流会（意見交換会）の実施

平成 18 年 1 月 27 日 於：ウトロ漁村センター

新食材による定番メニュー開発に向けたホテル・旅館等観光事業者と生産者との意見交換会を実施した。

■オホーツク産の新食材試食会の開催 平成 18 年 2 月 5 日

観光エージェントと地元関係者（料理人）などを対象にオホーツク産の食材を試食してもらい、新たな定番メニュー開発に向けたアイデアや効果的な提供・PR方法などについて意見交換を実施した。

【ホスピタリティの充実】

■東オホーツクおもてなし度実態調査の実施

観光客に対してより充実したおもてなしや、接客などのレベルアップを図るため、網走・知床地域観光ホスピタリティ推進協議会の協力の下、東オホーツク地域 8 市町村（網走市・東藻琴村・女満別町・美幌町・小清水町・清里町・斜里町・常呂町）の観光案内・交通機関・宿泊施設・観光施設・飲食店・お土産店を対象に観光客に 5 段階評価していただく「東オホーツクおもてなし度実態調査」を Web アンケートにより平成 17 年 12 月 20 日から実施中（平成 18 年 2 月 20 日まで）。

アンケート集計結果を、観光施設など関係事業者にフィードバックすることでおもてなし度の向上を図る。

<斜里町・羅臼町事業>

1. 滞在型モデルツアー推進事業

平成 16 年度よりワーキンググループにより検討を進めていたエージェントとのタイアップによる滞在型モデルツアーを実際に試行した。また、引き続きワーキンググループにより秋季・冬季のモデルツアーについて検討を行い、冬季については、個人旅行者向けのプログラムを斜里・羅臼別企画により現在実施中である。

【滞在型モデルツアーワーキング検討会】

■第 1 回滞在型モデルツアー・ワーキング

平成 17 年 6 月 14 日 於：ウトロ漁村センター

春季モデルツアー中間報告と、10～11 月に実施する秋季モデルツアーのプログラムの検討を行った。知床横断道路が通行止めとなる 10 月下旬を境に、斜里・羅臼を横断する行程と斜里のみの行程の 2 パターンを作ることにした。

■第 2 回滞在型モデルツアー・ワーキング

平成 17 年 9 月 12 日 於：ウトロ漁村センター

春季モデルツアーについての報告と、秋季モデルツアーの内容・広報などについて確認を行った。また、冬季については、送迎・交通手段などの問題もあり、個人型か、エージェントタイプアップ型か、問題点を整理して今後検討することとした。世界遺産登録による今夏のオーバーユースによる混乱状況も考えると、モデルツアーのあり方から見直すべき、との意見も出された。

■第 3 回滞在型モデルツアー・ワーキング

平成 17 年 11 月 2 日 於：斜里町ゆめホール知床

世界遺産登録後のウトロ地区ホテルの大混雑状況が秋まで続いたため、秋季モデルツアーは集客が行えず、実施できなかったことが報告された。冬季については、個人型の両町別企画とし、羅臼では現地集合・解散によるスケソウダラ刺し網漁体験とワシウォッチング、斜里では推進協議会推奨プログラムによるモデルプランの提示とルール・マナーの普及活動とした。

【滞在型モデルツアー】

春季モデルツアーは 5 月中旬～6 月の設定で集客を行い、3 回の実施、計 6 名の参加があった。斜里町と羅臼町を横断し、海から山まで知床の様々な環境でのガイドプログラムと、地域の産業・人々との触れ合いの機会を提供する内容に、参加者からは高い評価を頂いた。また、担当したガイドからも、広域にわたるガイドを行うことにより自然に対する理解を深める解説をすることができたなどの評価を頂いた。集客が伸び悩んだことについては、3 泊～4 泊という期間の長さ、料金の高さが指摘された。エコツアーを普及させるためには、気軽に参加できる初級者向けや滞在日数の少ないエコツアーの企画が必要であることがわかった。

秋季については、世界遺産登録後にウトロ地域宿泊施設のキャパシティを超える予約が入ったため、集客を停止せざるを得ず、実施に至らなかった。集客を地元でコントロールできない旅行会社とのタイアップによるツアーは、状況によってはリスクが高いことが判明したが、斜里町の農業、羅臼町の漁業を取り入れた今回のツアーは、企画に漁業者・農業者が参加し、今後の地域産業と連携したエコツーリズムの可能性を検討することができた。

冬季については、個人旅行者向けのプログラムとし、羅臼町と斜里町では別企画とした。羅臼町では2月中旬～3月下旬に遊漁船を利用したスケソウダラ漁の体験・見学プログラムとワシウォッチングプログラムを実施した。漁業体験プログラムの企画から広報、受付、実施までを実際に地元で行ったことで、今後の漁業と観光との連携に向けて、地域における推進体制の整備を行うことができた。

斜里町では2月上旬～3月下旬に、セルフチェックによって選定した推奨エコツアープログラムのプロモーションと、ガイド事業者連携によるホテルロビーへのエコツアーデスクの設置、観光客へのルール・マナーの普及活動とした。ガイド事業者が連携し、統一した窓口による利用者への情報提供、予約受付システムを試行したことにより、今後のシステム構築のために有用な様々なデータを得ることができた。



春季滞在型モデルツアーでの「原生林トレッキング」

2. 海外からの旅行者の誘致推進事業

【英文 HP の作成】

世界遺産登録後、増加が予想される海外からの旅行者への対応のため、知床を紹介する英文ホームページを作成した。知床の自然の紹介と世界自然遺産などについての情報を掲載している。知床の自然情報やアクティビティ情報など、海外からの旅行者が必要とする情報発信を今後も継続して行う。